

最優秀賞 (1点)

「ぼくにもできる下水管の保守作業」

最優秀賞
南足柄市立南足柄小学校

お お た な お
太 田 七 緒

ぼくは、四年生になり大好きな社会の授業で上水道、下水道について学びました。授業では担任の先生が上水管と下水管のしくみについて教えてくれました。また、実際に市内にある矢倉沢の浄水場に山道を歩いて見学に行き、作業員さんのお話を聞いたり、水をきれいにしていく過程を見たりして学びました。そしてそのきれいになった水を使った後の、汚れた水をきれいにしてから海に流す下水道のしくみも学びました。その下水道のしくみの授業の中で、下水管の保守作業をする作業員さんのお話の動画を見ました。当たり前に使っていた上下水道について、たくさんのことを学んだ中で、ぼくが一番印象に残ったことは、下水管の保守作業の大切さと大変さです。

下水管の保守作業は、下水管が地中にあるため、専用の機械を使って地面の上から下水管を流れる水の音の少しの違いで不具合を見つけるそうです。また、住民の迷惑にならないように気をつけて夜間に作業を行っているそうです。ぼくの好きな電車にも車両や線路の打音検査という、たたいた時の音のほんの少しの違いで不具合を見つける作業とよく似ているなと思いました。きっと、電車の打音検査の作業員さんも長く難しい訓練を積んでできるようになったと言っていたのと同様に、下水管の保守作業員さんも長く難しい訓練を積んでできるようになった大変なお仕事だろうなと思いました。

三年生の今年の冬に、テレビのニュースで埼玉県の道路がかんぼつしてトラックが穴に落ちてしまったというニュースを毎日放送していました。急に道路に穴が開くなんて、こわいなぁと思いながら見ていたことを覚えています。この道路のかんぼつ理由は下水管の破損だと聞いたことも覚えています。四年生

になり、下水管の保守作業について学んだ時、なぜあの埼玉の事故では下水管が破損したのか調べてみたいと思いました。ニュースや新聞記事を調べたところ、下水管に生ごみが流れてどこかにひっかかりたまっていくと有害物質が発生し、老きゅう化している下水管を溶かしてしまい破損するそうです。破損したか所には周りの土がどんどん流れこみ道路の下には空どうがで、その上の道路を車が走ると重みを支えきれなくなりかんぼつしたそうです。

下水管の保守作業の作業員さんがどれだけ大変な作業をがんばってくれていても、ぼくたちがきちんとルールを守らずに下水道に生ごみや油を流すと下水管は破損してしまいます。では、埼玉の道路かんぼつのようなことが自分たちの周りで起きないように、下水管を守っていくためにぼくたちにできることは何かと考えました。簡単なことかもしれないけど自分だけなら大丈夫だろうと考えずに、細かい生ごみは下水道に流さないようにすることだと考えました。ぼくの家では台所の排水口のごみ受けにはネットをかぶせて、そこで細かい生ごみを集めているそうです。油はキッチンペーパーという紙に吸収させて捨てているそうです。お風呂の排水口に流れるかみの毛はネットで集めてから捨てているそうです。今までお父さんやお母さんが知らない間にやってくれていた下水管を守る家事を手伝え、ぼくも一緒に下水管を守れるかなと考え、少しずつお手伝いをしていきたいと思いました。それが今のぼくにできる下水管の保守作業なのだろうと思います。

優秀賞（3点）

「きれいな水をまもる下水処理場」

優秀賞
伊勢原市立竹園小学校

すずき じょうち
鈴木 丈智

四年生の一学期に伊勢原市の下水処理場に見学に行きました。小さなころから下水処理場の周りの田んぼ道をお父さんとよくさん歩していました。お父さんに、家からでたよごれた水をきれいにする所と聞いていました。中に入ってみたいとずっと思っていたので、4年生みんなで見学できてうれしかったです。

下水処理場は、学校の校庭よりも広くて、中にはプールみたいな大きな水そうが何こもありました。その水を水が通っていくと、びせい物などの力で水がどんどんきれいになっていきました。二十四時間ずっと動いていて約三十人の人がはたらいて、夜も二人の人が当番でいると聞きました。伊勢原市の人口は約十万人なので、たくさんの人の家から出たよごれた水をきれいにするには、こんなに大きなせつが必要なのだとおどろきました。

ぼくは、この夏休みのほとんどを岐阜県いび川町坂内のもろ家集落ですごしました。いび川の一番上流にある小さな集落です。川の水は、今までみた川の中で一番きれいでした。もろ家集落の百メートルくらいはなれている所に下水処理場がありました。もろ家集落は、十二世たいがあり約二十人が住んでいるのでその人たちのための処理場です。大きさは一けんのお家ぐらいで無人です。町役場の人に聞いたところ、約三十年前にできて、一週間に一回点検に来るそうです。

こんな少人数のためになぜ下水処理場があるのかというと、いび川の上流に位置するので、下流の人がきれいに使えるようにと作られたそうです。一けんぽつんとある家や下水道が通っていない家では、合流処理浄化槽と言う自分の家で水をきれいにするせつびを整えているそうです。そのようなせつびのおかげでいび川のとてもきれいな水が守られていると分かりました。

ぼくがもろ家集落ですごす間に、たくさんのトンボや、川の中の魚をはじめてみる生物をたくさん見つけました。また、しか、たぬき、さるもたくさん見ました。そんなしぜんを守るために、小さな下水処理場は大切な役わりをしているんだなと思いました。

ぼくの家では、マイクロプラスチックや化学物質をたくさんふくんでいるじゅうなんざいや洗剤は使っていないとお母さんが言っていました。マイクロプラスチックや化学物質は下水処理場ですべてを取りのぞけず、川や海に出てしまうそうです。それらが魚や水の中でくらす生物に悪えいきょうをあたえ生たい系がおかしくなります。さい終てきには地球のかんきょうをこわします。一人一人がきれいな水を守るためにかんきょうにやさしい商品をえらぶのも大切だと思います。

「SDGsのカギ」

優秀賞

松田町立松田小学校

かとうともき
加藤 智 樹

わたしは、毎年夏休みになると家事の手伝いをしますが、今年は初めておふろのはい水口のそうじをしました。おふろのはい水口のそうじのやり方は、はい水口にあるいろいろな形の器具をはい水口からはずし、使い終わった歯ブラシや、スポンジでよごれをとります。そして、はい水口の中もきれいにし、はずした器具を元の位置にもどすだけの、すごくかんたんそうな作業でした。しかし、そうじを始めてみると、ヘドロのようなものがたまっていて、さわるとヌルヌルして、今までかいだにおいの中で一番くさくて、思わず、

「ヒィィーッ」

と声をあげてしまいました。おふろのはい水口のそうじは、とても大変な、家事でした。

そうじをしていたら、下水道や下水しゅりセンターについて学校で勉強したことを思い出しました。下水道とは、きたなくなった水を下水しゅりセンターに運ぶくたのことで、下水しゅりセンターとは、そのきたない水のよごれを取ったり、消どくしたりして、海や川に流すしせつのことです。わたしは、この下水しゅりセンターがとてもすごいと思います。なぜなら、はい水口の中にあったようなきたなくてくさくて、とてもよごれている水を海や川に流せるようにしてくれているからです。

ところが、下水しゅりセンターと、下水道はがんばっていますが、近年海に、プラスチックなどのゴミをすてる人がふえています。プラスチックのゴミを魚が食べてしまって、ゴミを食べた魚を人間や、鳥、その他の動物などが食べると、食べた動物にもがいがおよぶので、そのままにすることもできません。下水しゅりセンターだけで海のゴミをなくすのは、とてもむずかしいです。そこで、この問題をかい決するための目標が入った、SDGsが作られました。

SDGsとは、二〇一五年に作られ、二〇三〇年までに、かんきょうを良くしたり、人けんなどのひがいをへらすなどのために作られた目標です。その十七の目標の中で、水に関するものがあります。六番の『安全な水とトイレを世界中に』と、十四番の『海の豊かさを守ろう』です。きれいな水やトイレがなければ、病気になってしまうし、前にも書いたように、海にゴミをすけると、人間だけではなく、他の生き物にも害がおよびます。六番と十四番の目標を達成するには、下水しゅりセンターと下水道が必要だと、わたしは思います。二〇二〇年の日本の下水道ふきゅうりつは、八十一%です。ここまで下水道があって、きれいな水を飲める国は、とてもきちょうです。だからこそ、下水道のぎじゅつを伝えたりして、安全な水を世界中に送れたらいいなと、思います。なので、わたしは、下水しゅりセンターこそが、SDGsのカギだと思います。

わたしたちの住んでいる日本に下水道はありますが、その下水道が止まってしまったらどうでしょう。トイレやおふろが使えなかったり、ふだんできている生活ができなくなり、とてもふべんです。そこで、自分の生活の中でもできることをインターネットで調べてみました。たとえば、シンクに油やゴミを流さないことです。油がたまってかたまったり、ゴミがたまったりすると、水がつまるげんいんになります。その他にも、下水道が変形してしまうと水がつまるので、ねっ湯を流さないという工夫もあります。

このように、SDGsの目標達成のためにわたしたちができることは、いろいろあります。わたしたちと下水道、下水しゅりセンターが協力すれば、SDGsの目標達成に近づくと、わたしは思います。

「ぼくが調べた下水道のひみつ」

優秀賞
開成町立開成小学校

こみやま えいた
小見山 瑛 太

ぼくは下水道について調べてみました。下水道には色々な役割がある事が分かりました。

ぼくが注目したのは、下水道には汚水を流す管と雨水を流す管の2つがあるということです。

汚水管は、生活で出るトイレの水や食器を洗う時に出る水、お風呂の水などを流す管です。雨水管は、雨がふった時に出る雨水を流す管です。下水道管が通っている地面の下は見えないけど、水を流すしくみは2つあります。それは、合流式と分流式の2つです。

合流式は、汚水と雨水を同じ下水道管に流す事です。強い雨がふると、下水処理場に集まる水が増えてしまい、マンホールや家の水道管に汚水がぎゅぐゅもどりにして町が汚れた水であふれかえってしまいます。それに、下水処理が間に合わないと、海や川に汚ない水が流され、海や川が汚れてしまいます。そうすると、海や川の生き物たちが死んでしまったり、漁業ができなくなり、ぼくたちは魚が食べられなくなってしまいます。

分流式は、汚水と雨水をそれぞれ別々の下水道管に流す事です。汚水は、汚水管を通過して下水処理場に集まります。道ばたの雨水や屋根にふった雨水は雨水管を通過して海や川へ流されます。ぼくは、分流式の方が良いと思います。

なぜなら、雨水だけが海や川へ行くので海や川が汚れる心配はありません。それに雨水をうまくためればこう水をふせぐ事もできます。調べてみると、ためた雨水を色々な事に再利用している事もわかりました。ある公園では、ためた雨水を火事の時に使います。それに、グラウンドや草木の水やりにも使うそうです。学校などは、地下に雨水をためておき、水洗トイレやそうじに使っているそうです。これは、きれいな水を節約している事と同じでとても良いアイデアだと思います。

下水道管は、災害の時にもとても役に立ちます。ぼくが調べて一番おどろいたことは、熊本じしんがおきた時に、汚水管のマンホールのふたを開けて、その上に仮設トイレを設置した事です。しかも、マンホールトイレにテントをはり個室のトイレがいくつも作れたそうです。災害にあった人は、いつも通りにトイレが使えてとても助かったと思います。まさか、マンホールがトイレに変身するなんて、ぼくは思いもしませんでした。

はじめぼくは、下水道管の役割は水を運ぶだけだと思っていました。だけど、本当は目に見えないところでぼくたちの生活をたくさんささえてくれるのだと分かりました。ぼくが調べたみたいにみんなにも下水道管について調べてもらい、もっと色々な役割を知ってもらいたいです。

入 賞 (6点)

「下水道の役割と私達にできること」

入 賞
相模原市立橋本小学校

す ず き こ と は
鈴 木 琴 葉

私は学校で下水道について学びました。写真や動画を見て分かったけれど、もっとくわしく知りたいなと思いました。

調べてみると相模原市内には下水処理場がなくて、相模原市から出た下水は相模川河口のちがさき市にあるやなぎ島水さい生センターで処理されていることが分かりました。そこでは、相模川流いきの関連市町七市一町の下水処理が行われているそうです。サッカーコート二十七・五面分の広い土地で、日本で十番目の処理能力を持った下水処理場なんです。ですが、調べてみたところ家からその下水処理場まではちょっと遠いのです。なぜなら、一番遠い相模原市から約十五時間かけて下水がとうちやくするきよりなのです。

そんな話をしていたら、お父さんが実際に下水道かんに入ることができるしせつの前を通ったという話を聞き、きょうみがあつたのでさっそく行ってみることにしました。下水道のれきしや下水処理の順番をふく習した後に、実際に地下二十五メートルの所にある下水道かんに入りました。生ぬるい空間で少しにおうなと思わず鼻をつまんでしまいました。水の色はとてものにございて、この水をきれいにするのはとても大変だろうなと思いました。また実際にゲリラごう雨で下水道かんの中の水がきゅうげきにふえた時のえいぞうも見ました。下水道がなければ汚れた水がまち中にあふれてしまいます。やっぱり魚や貝が住めるような水にもどす下水処理場、そして汚れた水を運ぶ下水道かんはなくてはならないそんざいだなと思いました。

そんな大切な水をくりかえし使うために、あまり汚さずていねいに使いたいと思います。魚や貝が住めるような水にもどすためには、牛にゅうやしょうゆ十ミリリットルでは三百リットルの水が、また使用ずみ油十ミリリットルでは九千リットルもの水が必要だと知りました。下水処理場からの五つのおねがいの中で私にもできそうな二つを紹介します。一つ目はティッシュや水にとけないゴミを流さない、二つ目は油や野菜くずを流さないです。今学校で取り組んでいる食品ロスの問題と私にもできそうなおねがいの二つ目とつながるので、とくにがんばれると思います。

このごろ色の付いたかわいいマンホールを見つけることがあります。私も相模原市立はくぶつ館ではやぶさツをイメージしたマンホールカードをもらいました。相模原市には他にも三種類あるようです。これから順番に集めていき、下水道にも注目していきたいと思います。

「自然を守る下水道」

入 賞
相模原市立桂北小学校

い し ざ わ す い
石 澤 翠 惟

ぼくは、ししとうの天ぷらが大好きです。おいしいし、たまにすごく辛いものもあるので、家族とせーので同時に食べて、だれが辛いものに当たるかを楽しみに食べています。

天ぷらをあげたなべに、お母さんは白いこなを入れていました。よくまぜると、油が固まり、ごみ箱に捨てていました。横で見えていた兄が、

「油は排水口に流しちゃいけないんだよ。」

と、教えてくれました。でもなぜ、そのまま捨ててはいけないのだろうとぎもんに思いました。

四年生になって「水道と下水道」という勉強をしました。そこで、油を排水口に流してはいけない理由が分かりました。

下水道はよごれた水を下水処理場へ運び、きれいになった水を川や海にかえすはたらきをしています。しかし、きれいにしてくれるからといってなんでも排水口に流していいわけではありません。例えば、油を流すと、冷えて固まった油が、下水道管のはれつを起こしてしまうのだそうです。また、水をきれいにする工程で、び生物の力も借りているのだそうですが、油のせいで水をきれいにするまでに時間がかかってしまうのだそうです。

び生物は川や海にもいます。

ぼくは、生き物が好きなので、兄と一緒に川や山道に遊びに行きます。川の中の石をさわるとぬるんでいるのがわかります。コケやび生物がくっついていてるのだそうです。そのコケやび生物には、たくさんの種類がいて、「川のプランクトン」とよばれています。これらのび生物は、よごれた川の水をきれいにし、川を守っているのです。しかし、下水処理場のび生物と同じで、油や洗ざいを流すと、川を元にもどすまで時間がかかったり、び生物自体が死んでしまいます。ある川に行った時に、キャンプをしている人達がいまして。よごれた皿や物を、川の中で洗ざいを使って洗っていました。下水処理場できれいにした水を川にかえしても、これでは同じことだと思いました。ぜったいにやめてほしいです。きたなくなった川には、び生物も魚もこん虫も住めなくなり、川は死んでしまいます。

生活をする中で、よごれた水があるのはしかたないと思います。料理や洗たく、お風呂などきたない水は毎日出てしまうからです。下水処理場があるおかげでぼく達は安心して水を使うことができます。下水処理場は、家から出たきたない水をきれいにしてくれるだけでなく、川や海の自然を守っているのだなと思いました。ぼくはこれからも、水道を正しく使っていきたいと思います。いつまでも美しい自然であってほしいからです。

「よみがえる水」

入 賞
小田原市立久野小学校

い と う り お ん
伊 藤 利 恩

ぼくは、社会の学習で、「水はどこから」という学習をしました。その学習をして分かったことは、ぼくたちが飲んでいる水は、海や川から組み上げられ、浄水場できれいにされていることです。そこで、ぼくがふしぎに思ったことがあります。それは、「使った後の水はどうなるのか」ということです。使った後の水がどこかに流れて行くのは知っているけど、使った後の水がどのようになるのかまでは知らないため、図書館で本をかりて、調べることにしました。

ぼくは、使った後の水をきれいにし、海や川に流すしせつを、「下水処理場」ということを、四年生で初めて知りました。下水処理場では、ちん砂池、第一ちんでん池、反応タンク、第二ちんでん池、塩素せつしょくそうの五つの工程に通すことで、海や川に流します。ちん砂池は、大きなゴミや砂をちんでんさせる役わりがあります。第一ちんでん池は、細かいゴミや砂などをちんでんさせる役わりがあります。反応タンクは、水の汚れを微生物の力でじょきよする役わりがあって、特に、大事な工程です。第二ちんでん池は、活性汚泥と上澄み水に分離する役わりがあります。塩素せつしょくそうは、水を放流する前に、大腸菌などの菌を殺菌する役わりがあります。

最近では、ちん砂池の上にポンプ所が設置されている場合があって、そのポンプ所で熱のリサイクルをしている場合があるらしいです。

このことから、下水処理場について三つ感じたことがあります。

一つ目は、水の汚れは目に見えないとても小さなものののに、五つの工程で水をきれいにする仕組みがあるということです。どの工程も、大切な役わりで、水をきれいにするためには、必要なことだと感じました。

二つ目は、使った後の水は、汚れやにおいがあるのに、海や川をよごさないようにするために、いっしょうけんめい働いてくれている人がいることです。

三つ目は、下水処理した水をリサイクルしているということです。水のリサイクルとは、例えば、ビルのトイレで流す水として、さい利用することをいいます。

ぼくたちが少しでも水をきれいにする取り組みとしては、例えば、あげものなどを作った時に出る、汚れた油をペットボトルに入れて、決められた日にゴミに出したり、食べのこしを水に流さないなどがあります。少し工夫するだけで、水が汚れないようにすることができます。

ぼくが水を汚さないようにしている工夫は、みそ汁をのこさないで飲むようにすることや、絵の具を必要な量だけ使うことや、習字のすみを紙でふきとることで、水を汚さないようにすることです。

水を汚さないようにするために、ぼくだけの取り組みでは足りないので、みんなができることを少しずつでも取り組んで、水が汚れることをへらして、大切な資源である水をのこしていくことができるのかなと感じました。

「思いやりで成り立つ下水道」

入 賞
厚木市立荻野小学校

あ べ し ょ う こ
阿 部 祥 子

社会の授業で、水のゆくえについて学習しました。下水道について知ったことは二つあります。一つ目は、家庭や工場から出たよごれた水が通る、下水しょ理しせつまでの道だということです。二つ目は、下水道から送られてきた水をきれいにするしせつが下水しょ理しせつだということです。もし、これらの仕組みがないままで、よごれた水が海や川にそのまま流れてしまったら、海や川の生き物たちは安心してくらすことができなくなってしまう。みんなのくらしを守る下水道のことが知りたくなったので、調べてみました。

分かったことは、下水として流してはいけないものがあるということです。油は、流してはいけないものの一つです。そのために、私の住んでいる市では、料理に使った油を回収して家ちくのし料にしているそうです。他にも飛行機のねん料や石けんになるなど再利用の取組は、いろいろな所でされています。再利用することは大切ですが、どうして流してはいけないのかを初めて考えました。

今回、下水道について調べて特におどろいたのは、大さじ一杯のマヨネーズをはい水口に流すと、その水をきれいにするためにお風呂十三杯分の水を使わなければならないということです。水は大切に使わなければならない貴重な資源です。このままだと水をきれいにするために節水をしなければならなくなる時が来るのではないかと心配になりました。

また、油など流してはいけないものを流すと、下水道管がよごれたり、つまったりしてしまうこともわかりました。ふと、働いている人のことが頭にうかびました。みんなのくらしを守るために、全力で働いてくださっているのだと思います。だから、下水道管のそうじを少しでもしやすくするためにも、水道を利用するときには、一度立ち止まって、流して良いか考えた方が良いと思いました。

そこで、家ではどのようにしてたいさくをしているのか、気になりました。台所の様子をかんさつしていると、油を流さない方法がいろいろありました。あげ物をしたときは、使った油をこして、オイルポットに入れていました。こして残った物は、流すのではなく、ゴミとしてすてていました。ホットプレートを使ったときは、よごれを洋服の切れはしや使わなくなったタオルでふき取っていました。おばあちゃんの家泊まりに行ったときは、油をはい水口に流さないために、油を固めてからすてていました。

でも、下水として流れているのは油だけではないことにも気が付きました。飲みきれなかったジュース、ドレッシングなどです。油ものではないからと、気にしないで流してしまっていました。飲める量だけ注ぐ、ちゃんと使い切ることが必要だと思いました。このことから、下水を守ることは食品ロスを防ぐことにもつながっているのかもしれないと考えました。

さらに、下水しょ理しせつでよごれた水をきれいにする時、電気エネルギーを使ったり温室効果の高いガスが出てしまったりするそうです。下水がよごれていればよごれているほどたくさんのエネルギーが必要になり、たくさんのガスや二さん化炭そが出てしまいます。今、カーボンニュートラルに向けた取組を日本じゅうでして、出てくる熱やガスの有効活用もされていますが、下水を悪化させることも、地球温だん化につながるのではないのでしょうか。

わたしは、下水道は人やものとたくさん関わっていて、いろいろなつながりがあることに気が付きました。働く人のためにも、自分たちのくらしを守るためにも、地球のためにも、水を大切にルールを守っていくことが良い行動だと思いました。相手を思いやる行動で、住みやすい世界を目指していきたいです。下水道は、わたしたちのヒーローです。

「すごいぞ！下水道」

入 賞

南足柄市立向田小学校

か と う
加 藤そういちろう
聡一郎

下水道について作文を書こうとしたら、下水道のことは見たこともないし、なにも知らないことに気づきました。パパに聞いてみたけど、

「昔は、川にせんざいのアワがブクブクしていたな、それから家に浄化そうがあって、水せんトイレのはい水をきれいにしていたけど今の家に浄化そうはないね。南足柄市の下水はどこでしよっているのかな。」

パパも知りませんでした。そこで、南足柄市の下水がどうなっているのか調べてみました。

県西部は小田原市にある二つの処理しせつを使っています。南足柄市は右岸処理場にはいって扇町にありました。扇町の処理場では分流式という方法を使ってきれいにしています。分流式とは雨水と生活用水を分けて処理する方法です。きれいになった水は、酒匂川に流します。酒匂川がきれいなのはこの処理場のおかげだと分かりました。南足柄市だけで下水処理するのではなく、近くの市町村の下水を、集めて処理していることも分かりました。

下水道には主に三つの役割があります。一つ目は、工場や家庭から排出される汚れた水を下水処理場に運んで、きれいにすることでまちをきれいにします。二つ目は、汚れた水を下水処理場できれいな水に処理し、川や海へ戻します。三つ目は、都市に降った雨を、速やかに排除し、浸水被害を解消します。下水道はいろいろな役割があることに気づきました。

最近多くなってきている地しんやゲリラごう雨の時には大丈夫かな。ぼくが車に乗っていた時、とつぜん空が真っ黒になってバケツをひっくりかえしたような雨が降ってきました。前も見えなくなつてとてもこわかったです。道路に水があふれて大変困った人がいたと聞きました。雨だけではなく最近地しんについてよく耳にします。地しんがおきた時に下水管のこしょうでトイレが長いあいだ使えなくなったり、汚れた水がたまってしまうことが予想されます。去年の正月、珠洲市に住むおばあちゃんは地しんの後、トイレがとても大変だったと言っていました。自たくのトイレもひなん所の学校のトイレも使えなくなり、一回ずつトイレにビニールぶくろをしてぎょうこざいで固めてすてるという方法を使っていたましたが、トイレがきたなくなり、すてたものもたまっていたそうです。

南足柄市の下水管のふきゅうりつを調べてみたら平成二十二年のデータで63.8%で思ったよりも低かったです。そこで下水道の使われている年数についても調べてみました。南足柄市は約三十五年くらい、下水道は五十年経つと古くなると言われているそうなので、まだ大丈夫そうです。

きちんとせいびされた下水管がもっと南足柄市にふきゅうすることで、市民が安心して暮らせる町づくりができるといいなと思いました。

「ぼくはヒーロー」

入 賞
綾瀬市立綾瀬小学校

すぎもと ゆうだい
杉 本 雄 大

下水道のぼくは、みんなのヒーローなんだよ。ぼくがいなかったら、よごれた水が川や海にそのまま流れてしまうんだ。トイレの水、お風呂やキッチンで出たよごれは、ぜんぶぼくがきれいにしてから川や海にもどしているんだよ。もし、ぼくがいなかったら、よごれた水がそのまま川や海や道に流れてしまうんだ。みんなが夏休みにきれいな海や川で遊べるのは、ぼくのおかげなんだよ。

ご飯を食べたあとのたべカスをそのまま下水道に流したり油を流したりする人がいると、ぼくはうまく水が流せなくなってしまうんだ。ほかにも、ビニール、ラップ、ガム、タバコ、かみの毛、ペットボトルのキャップやストローなども流れてきてこまっているんだ。

みんなが毎日つかっている水は、下水処理場に集められてきれいにされているんだよ。下水処理場ではまず大きなゴミを取りのぞいて、次によごれをしずませたり、こしとったりして水をきれいにするよ。さいごにしょうどくをして、やっと水はきれいになり、川へと帰っていくんだ。

このしごとをしてくれる人たちがいるから、みんなが安全に水が使えるんだよ。

みんなにぼくからおねがいがあるんだ。ご飯のたべカス、ビニール、ラップ、ガム、タバコ、ストローなどを流さないでほしいんだ。他にも油などのお皿のよごれは、しっかりふきとってから洗う。お風呂の排水口のかみの毛などをこまめに取りのぞく。せんたくをするとき、せんざいの使用量をしっかり守る。食べのこしなどがでないようにする。

ゴミ、ちょうりクズなどを流さないように考えて、こうどうし、排水口に、ネットを付けましょう。トイレットペーパー以外はトイレに流さないでね。キッチンペーパーなども流したらだめだよ。みんなのできることをせっきょくてきにやってくれたらうれしいな。

みんなには見えないけれど、ぼくは毎日町の下でがんばっている。みんながルールを守れば、まちや川をきれいにたもつことができるんだよ。